

2022（令和4）年度 福岡女子大学 外国人留学生選抜

〔 一般選抜試験問題 〕

国際教養学科

小論文

【 60 分 】

注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 問題は2ページから4ページにあります。問題は全部で**1題**です。
- 3 解答用紙には2ページ目にも解答欄があります。
- 4 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れ等に気づいた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
- 5 試験開始と同時に解答用紙の**受験番号欄に受験番号を記入**してください。

問題 次の文を読んで、後の問に答えなさい。

映画ではよくあります。登場人物が物語の途中で、何かを拾う。あるいは置いていこうとしたものを、なにかのはずみでポケットにしまう。そういうシーンが大写しになったら、(1) それは伏線です。必ず後で「それがあっておかげでピンチを脱出した」という展開になります。よくあるのは、「聖書」と「家族の写真を納めたロケット」。これは胸を銃撃されて、誰もが死んだと思ったときに、聖書やロケットが代わりに銃弾を受けて生き延びた……という話につながります。似た話があまりに多いところから考えると、これはずいぶんと起源の古い説話原型なのでしょう。その教訓は明らかです。人が「無意味」だと思って見逃し、捨て置きそうなものを、「なんだかわからないけれど、自分宛ての贈り物ではないか」と思った人間は生き延びる確率が高い。そういうことです。

この後期資本主義社会の中で、めまぐるしく商品とサービスが行き交う市場経済の中で、(2) この「なんだかわからないもの」の価値と有用性を先駆的に感知する感受性は、とことんすり減ってしまいました。

それもしかたがありません。僕たちの資本主義マーケットでは、値札が貼られ、スペックが明示され、マニュアルも保証書もついている商品以外のものには存在する権利さえ認められないんですから。その結果、環境の中から「自分宛ての贈り物」を見つけ出す力も衰えてしまった。

けれども、これはかなり深刻な事態だと僕は思います。出版不況などというレベルにとどまらない、もっと根源的なところでの人間の生きる力が衰弱している徴候だと思います。生き延びるチャンスを自分自身で削り減らしている。

「私は贈与を受けた」と思いなす能力、それは言い換えれば、疎遠であり不毛であるとみなされる環境から、それにもかかわらず自分にとって有用なものを先駆的に直感し、拾い上げる能力のことです。言い換えれば疎遠な環境と親しみ深い関係を取り結ぶ方のことです。

同じことは人間同士の関係でももちろん起きます。自分にとって疎遠と思われる人、理解も共感も絶した人を、やがて自分に豊かなものをもたらすものと先駆的に直感し

て、その人のさしあたり「わけのわからない」ふるまいを、自分宛ての贈り物だと思
いなして、(3)「ありがとう」と告げること。

人間的コミュニケーションはその言葉からしか立ち上がらない。

それは「おのれを被造物であると思いなす」能力が信仰を基礎づけ、宇宙を有意味
なものとして分節することを可能にしたのと、成り立ちにおいては変わらないと僕は
思います。信仰の基礎は「世界を創造してくれて、ありがとう」という言葉に尽きる
からです。自分が現にここにあること、自分の前に他者たちがいて、世界が拡がって
いることを、「当然のこと」ではなく、「絶対的他者からの贈り物」だと考えて、それ
に対する感謝の言葉から今日一日の営みを始めること、それが信仰ということの実質
だと僕は思います。

人間を人間的たらしめている根本的な能力、それは「贈与を受けたと思いなす」力
です。この能力はたいせつに、組織的に育まなければならない。僕はそう思います。
ことあるごとに、「これは私宛ての贈り物だろうか？」と自問し、反対給付義務を覚え
るような人間を作り出すこと、それはほとんど「類的な義務」だろうと僕は思います。

しかし、今の社会に、こんな言葉づかいで経済活動について語る人間はいません。
少なくとも、僕は会ったことがない。今僕たちはメディアのことを問題にしているわ
けですけども、(4) メディアについて語る無数の言葉のうちに、「贈与と反対給付義
務」という枠組みでメディアを論じているものは見当たりません。ほとんどの人たちは
ひたすら「ビジネス」について語っています。財物であるテキストをそれと等価の
貨幣と遅滞なく交換する仕組みをどうやって構築するか、もっぱらそれを語っている。
そこには、「パスしたもの」がいつか「これは私宛ての贈り物だ」と思いなす人に出会
うまで、長い時間をかけて、長い距離を旅しなければならないという考えの存立する
余地はなさそうです。

(内田樹『街場のメディア論』光文社新書、2010年、202～205頁より)

【注】

反対給付義務 …筆者は、「反対給付」に関して、「贈り物」を受け取った者は、心
理的な負債感を持ち、「お返し」をしないと気が済まない、ということを述べている。

問1 下線部(1)「それは伏線です」について、どういうことがどういふことの「伏線」だと筆者は考えているのか、「伏線」という言葉は使わずに、簡潔にあなた自身の言葉でまとめて説明しなさい。

問2 下線部(2)「この「なんだかわからないもの」の価値と有用性を先駆的に感知する感受性は、とことんすり減ってしまいました」について、どういふことが原因でそうってしまったと筆者は考えているか、簡潔にあなた自身の言葉でまとめて説明しなさい。

問3 下線部(3)「「ありがとう」と告げること」について、筆者はここでの「ありがとう」という言葉を、どういふことに対してどういふ考えを込めて発する言葉として考えているか、簡潔にあなた自身の言葉でまとめて説明しなさい。

問4 下線部(4)「メディアについて語る無数の言葉のうちに、「贈与と反対給付義務」という枠組みでメディアを論じているものは見当たりません」に関して、次の①・②それぞれについて答えなさい。

① 筆者は、現在の出版メディア業界について考える場合に、どういふ論じ方をしようとする点に問題があると考えているか、またそれをどのように改善すべきであると考えていると思われるか、簡潔にあなた自身の言葉でまとめて説明しなさい。

② あなたは、筆者の考える「コミュニケーション」や「メディア」の望ましいあり方について、どういふ考えを持つか。筆者が挙げていない具体的な例を自分で取り上げながら、あなたの考えの根拠を明確に示して、論述しなさい。